千葉氏ゆかりの地

胤重寺

Inju-ji Temple

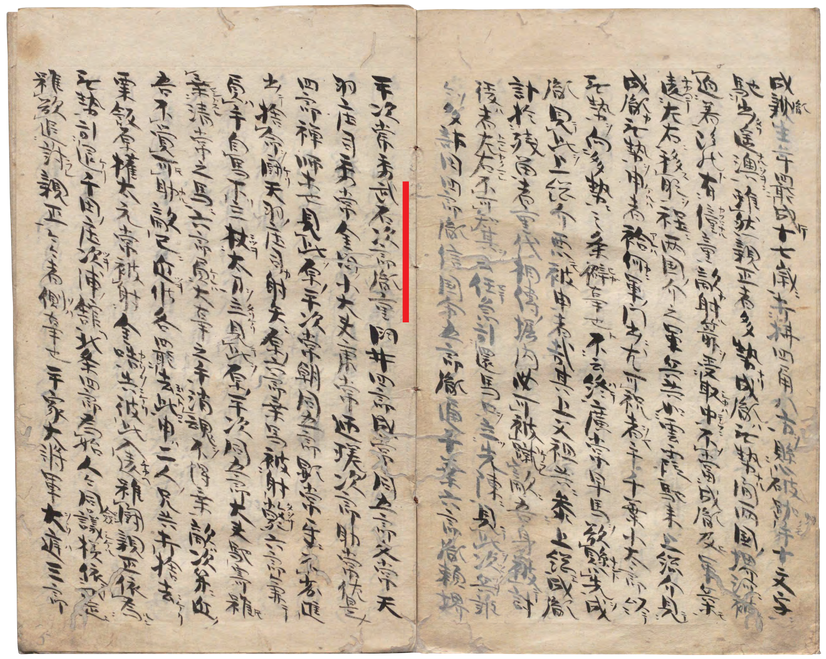
千葉氏ポータルサイト　Foreign Languages

千葉常胤の孫、武石胤重を弔い開かれた寺

胤重寺は浄土宗の寺院で、本尊は阿弥陀如来です。本堂には千葉氏の家紋、月星紋が見えます。永禄元年（1558）、千葉常胤の孫、武石胤重の菩提を弔うため、その子孫である雲巌上人が開山したと伝わっています。常胤には千葉六党と呼ばれた6人の男子がおり、三男の胤盛は武石郷（現在の花見川区武石町）を与えられ、その地名から武石を名乗りました。この胤盛の子が胤重です。

胤重のものと伝わる供養塔

『平家物語』の異本『源平闘諍録』（鎌倉時代末期～南北朝時代初期成立）には、常胤の孫千葉成胤が平家方の藤原親政を破った結城浜合戦に、胤重が参戦したことが記されています。また、嘉禄3年（1227）に鋳造された瑞巌寺五大堂（宮城県松島町）の鐘（現存せず）の銘文の写しから、当時、胤重が陸奥国亘理郡（現在の宮城県亘理町）へ進出していたことが分かっています。東北に移住した武石氏は、鎌倉時代末期に亘理を名乗るようになり、江戸時代には仙台藩主伊達家の一門涌谷伊達氏となりました。



『源平闘諍録』
国立公文書館蔵（請求番号特093-0003）
「武石次郎胤重」とある

武石氏の祖である胤盛でなく子の胤重を弔う胤重寺の存在は、武石氏にとって胤重が重要な存在であったからだと考えられます。境内には胤重のものと伝わる供養塔があります。

千葉市教育委員会